

PKD 多発性嚢胞腎

PKD 多発性嚢胞腎とは

腎臓に嚢胞ができる疾患です。進行していくと腎機能が低下していきます。多くが4歳以上の猫で発症します。原因としてはポリシスチン1産生障害がみられます。

代表猫種

アメリカン・ショートヘア、雑種、シャム、ペルシャ、ブリティッシュ、マンチカン、ミヌエット、メインクーン、ラガフィン、ラグドール 他



泌尿器

発症年齢

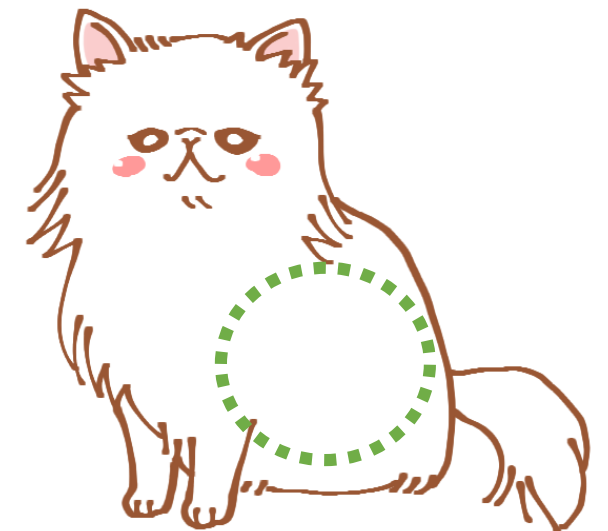
4歳以上から平均 7 歳齢

変異遺伝子保有率※

ペルシャの場合 18.6%

エキゾチックショートヘアの場合 12.0%

※2016～2020年で検査した株式会社VEQTA のデータより。
変異保有率とはキャリアもしくはアフェクテッドと診断された頭数を検査した全頭で割った時の割合です。



**PKD 多発性嚢胞腎は
常染色体優性（顕性）遺伝です。**

ノーマル（クリア） aa

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

アフェクテッド（変異ヘテロ接合） Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。
ただし、常染色体優性遺伝のため、その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

アフェクテッド（変異ホモ接合） AA

変異型のみ検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクが高い**です。変異ヘテロ接合よりも、重症化しやすいと言われています。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、優性遺伝の場合は片側だけでもアフェクテッドとなります。

